



経済と 地域社会の発展 プロジェクト戦略

目次

「経済と地域社会の発展」とは？	1
プロジェクト計画の第一歩:地域社会調査	2
若者の失業率	3
起業の妨げとなる要因	5
農業・畜産業の機会	7
貧困問題に取り組むためのリソース	10
参考資料&リソース	12
関連出版物	12
用語の説明	13

「経済と地域社会の発展」とは？

失業、不完全雇用、ビジネスの機会・職業研修・社会保障の欠如は、貧困を引き起こす深刻な問題です。人びとが健康で安全な生活を送るための手段の一つとなるのが「働くこと」であり、貧困を減らすには雇用機会の創出と収入源の確保が必要とされます。特に、女性、若者、貧困層の人びとのエンパワメント（社会における地位向上）は、持続可能な経済的・社会的発展のカギとなる要素です¹。

「経済と地域社会の発展」は、ロータリーの6つの重点分野の一つとなっています。

経済と地域社会の発展が重視される理由：

- ➡ 一人当たりの農業収入が1%増えるごとに、極度の貧困者数が0.6%～1.8%減る²。
- ➡ ある研究によると、マイクロクレジット（小口融資）を利用できれば、収入や消費の変動に左右されにくくなる³。
- ➡ ある研究によると、ナイジェリアでは、人材投資（教育や研修など）を1%増やすことで、貧困を66%以上減らすことができる⁴。
- ➡ 単純労働で働く女性は、専門性のある仕事に就くためのスキルを備えていない。シンガポール、台湾、マレーシアなどの国に見られるように、職能訓練の充実は、その国の付加価値生産を高めるための必須条件である⁵。

世界銀行によると、1日に1ドル25セント未満で生活する貧困者数は、1990年に192万人でしたが、2011年には100万人にまで減少しています。貧困を減らす取り組みでは着実な成果が挙げられており、2015年にはミレニアム開発目標（MDGs）の一部が達成されています。しかし、持続可能な開発目標（SDGs）では、現在も世界に以下のような切迫したニーズがあると指摘されています：

- ➡ 2013年の失業人口は約2億200万人であり⁶、そのうち7450万人は15歳～24歳の若者だった⁷。
- ➡ 都市部以外に住む貧困者の70%の主な収入源と仕事は農業である⁸。
- ➡ 雇用における男女格差は根強く、2012年の就業率における男女差は24.8ポイントである⁹。

世界各地のロータリークラブは、経済と地域社会の発展をめざす活動に取り組んでいます。この手引きでは、事前に調査すべき点やリソースを最大限に活用する方法をご紹介します。プロジェクトの実施地によってさまざまに事情が異なることを踏まえ、参考用としてご活用ください。

地域社会のニーズを調べる

プロジェクトを始める前に、まず地域社会の「ニーズ」(何が必要か)と「リソース」(何を地元で調達できるか)を確認することが大切です。地域の強みと弱みを調べ、どのようにしてニーズに取り組むのが効果的かを考えましょう。現地の歴史、文化、社会構造を念頭に入れ、地元の人や自治体・他団体と協力して徹底した地域調査を行いましょう。

調査の段階から地元の人と協力すれば、重要なニーズが見つけられるだけでなく、地元の支持を得た上で、持続可能性の高いプロジェクトを実施できます。調査方法については、ロータリーの出版物「**地域調査の方法**」をご参照ください。

憶測でニーズを決めないことが大切です。特に自分の住む地域(またはその周辺地域)である場合、既に事情を知っていると考えて、独断でニーズを判断してしまいがちです。さまざまな地元の人たちと話をし、現場の声に耳を傾けましょう。地元の人たちに参加してもらい、「自分たちの活動」であると感じてもらうことが重要です。

調査では、「はい」「いいえ」で答えられる質問ではなく、オープンエンド(自由回答式)の質問を用いましょう。地元のリソース(人材、インフラ、資金、団体など)、課題、ニーズを探るために、以下のような方法を用いることができます(このほかの方法は「地域調査の方法」をご参照ください)。

- ➡ 地元関係者を集めてのフォーカスグループ(座談会):事業経営者、失業中の市民、女性、若者、地元有力者など、さまざまなグループに分けて複数の座談会を開き、地元の強みとニーズを探る。地元が存在するニーズを挙げ、重要度に応じて順位をつけることで、最も重要なニーズは何かを判断できる。

- ➡ フォーラム(住民会合):地元の集会場に住民を集め、地元の問題や課題、強みについて自由に意見を出してもらおう。ニーズの解決に全員が貢献していると感じてもらうことが大切。
- ➡ インタビュー調査:幅広い層の人から意見を聞くことができる。
- ➡ 政府や自治体、企業、他団体との対話:互いにどう協力できるかを話し合う。
- ➡ 上記のほかにも、現地でできるだけ多くの人と対話をもち、協力の機会を探る。

プロジェクトは、物資や設備の提供だけでなく、人びとの能力向上を図るものとすべきです。ニーズへの解決策を地元の人たちと一緒に見つけ、地元に基づいたプロジェクトとすることによって、持続可能な成果が得られるでしょう。

ニーズを特定したら、地元にあるリソース(人材、インフラ、資金、他団体など)について考えます。地元住民が自力でニーズに取り組める可能性もあり、場合によっては、住民間の話し合いを促したり、地元関係者を集めて問題の検討を促すだけで十分かもしれません。座談会や個別インタビューでは、ニーズに取り組むのに役立つ経験やスキルを備えた人を紹介してもらいましょう。地元の人材を積極的に活用することで、ロータリアンは、地元の人だけでは解決できないほかの分野の支援に力を注ぐことができます。

地域社会のニーズに応える

経済と地域社会発展のニーズがある場合、その多くは以下のいずれかのカテゴリーに当てはまるはずです。

- 若者の失業率を下げる
- 起業の妨げとなる要因をなくす
- 農業・畜産業の機会を妨げる要因をなくす
- 貧困問題に取り組むためのリソース

調査の結果、「経済と地域社会の発展」の分野のニーズがないとわかったとしても、調査は決して無駄ではありません。むしろ、不必要な活動に時間やリソースを費やさずに済み、ほかのニーズが見つかることもあるでしょう。

続くページでは、各状況を詳しく分析し、それに対する持続可能な解決策と事例研究をご紹介します。

若者の失業率

2013年の統計によると、全世界で失業中の若者（15～24歳）の数は7450万人を上回っています¹⁰。

スキルとリーダーシップを育むことは、若者の就業率を改善し、貧困を減らすための重要な要素です。仕事に役立つスキルを身につければ、就職のチャンスが広がるだけでなく、生産性が高まり、地元経済の発展も促されます。しかし、貧困地域の人びとにスキル養成の機会を提供し、スキル研修が実際に就業へつながるよう支援するには、事前の慎重な計画が必要です。

？ 考えてみよう

- ➡ 地元の労働市場はどのようなものか。雇用の機会は何のくらいあるか。
- ➡ 地元の教育の機会やリソースにはどのようなものがあるか。
- ➡ 雇用のチャンスを高めるために求職者が身につけるべきスキルは何か。
- ➡ 身につけたスキルをどのように雇用に結びつけられるか（インターンシップや見習い）。
- ➡ スキル養成研修を受けた人びとを地元のロータリー／ローターアクト会員がどうサポートできるか（メンタリングなど）。
- ➡ 雇用に必要とされていないスキルを教えることは避ける。

グローバル補助金を利用して大学院レベルの奨学金を提供できます。詳しくは[重点分野の基本方針](#)をご参照ください。

+ 戦略：スキル研修とリーダーシップ研修、就職に役立つネットワークを若者に提供する

スキルの養成は、研修、指導、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）など、さまざまな形で行われます。地元経済や労働市場を考慮に入れ、その地域で本当に役立つスキルを育むことが重要です。雇用機会の創出を目的とする場合は、インターンシップ、見習い、メンタリングなど、地元の企業や事業経営者、自治体にも協力してもらいましょう¹¹。

研修を計画する際には、その地域の文化的事情や、研修参加にあたって地元の人が直面する問題も考慮に入れる必要があります。研修を受ける人たちの関心、ニーズ、期待に沿うよう、柔軟に対応しましょう。体の不自由な人、極度の貧困者、家計を支えている女性など、社会的に弱い立場にある人も参加できるよう、研修と教材は現地語で提供し、現地の人を研修者として起用することも大切です¹²。

研修で新しい設備や道具、教材が必要な場合、これらを管理・維持するための費用もあらかじめ予算も組み入れましょう。場合によっては、ごく小額の参加費用を徴収し、有料でも参加する人がいるかどうかを見ることで、その研修の価値を測ることができます。また、男性中心の労働市場や職業について女性が議論したり、その逆に男性が女性の社会進出について議論する機会を設けることによって、男女の機会均等に対する意識が高まります。

事例研究：

エクアドルでのスキル養成とマイクロクレジット (小口融資) プロジェクト

キト・オクシデンテ・ロータリークラブ (エクアドル) とマリリン・イブニング・ロータリークラブ (米国カリフォルニア州) は、7地区の64クラブと協力して資金を集め、エクアドルでスキル研修を実施しました。グラミン銀行をモデルとしたマイクロファイナンス団体FUDECEと提携し、貧しい女性たちに小額の融資と職業研修を提供。この取り組みでは、女性のエンパワメントを通じて起業や事業拡大を支援することによって、家族の自立と貧困の軽減を目指しています。

このプロジェクトでは、融資を受けた人を対象にアンケートを実施しました。その結果、数多くのニーズの一つとして、地元研修センターを設立する要望があることが分かりました。これを基に、新しい研修センターを設立し、その管理をFUDECEが担当。現在は、研修専門団体とも協力して授業を提供しています。このようにFUDECEとグラミン協同組合との協力が、活動の成功に大きく寄与しています。

これまでに250口以上の小口融資が提供され、研修センターでは270人以上が裁縫、パン製造、配管、マイクロクレジット、経営管理、リーダーシップなどの研修を受けています。



自らが経営する裁縫店で仕立てた服を見せる女性。小口融資を受けてこの店を立ち上げました。

起業の妨げとなる要因

小さな商売の立ち上げや起業に必要な元手のない貧困者の数は、世界で30億人近くに上ります。小口融資（マイクロクレジット、マイクロファイナンスとも呼ばれています）の場合、融資額は非常に小額であり、しかも低金利であるため、信用情報（クレジットやローン利用の履歴など）や担保、定収入のない人でも融資を受けられます¹³。この融資は、商売や事業を開始、維持、拡大するための資本となって、貧困から抜け出すのを助け、経済的な自立を促すきっかけとなります。ほかの種類のプロジェクトと同様、小口融資プロジェクトでも、地元の人と協力して地域調査を行う必要があります。

? 考えてみよう

- ➡ 新事業や商売で成功できるのは、どのような人びとが（起業や商売拡大に関心のある人を特定するための計画を立てる）。
- ➡ どのマイクロファイナンス機関と提携できるか（スキル開発、貧困緩和、社会的影響「ソーシャルインパクト」を重視している団体を選ぶ）。
- ➡ 技術的、経済的、文化的な課題は何か。
- ➡ 事業関係者のネットワークを築くにはどうすればよいか（このようなネットワークがあれば、学び合い、商売で成功した人や経験豊かな人からアドバイスを受けることができる）。
- ➡ どのような研修アプローチが効果的か。地元で最も人材が必要とされている事業や商売は何か。最も成功の可能性の高い事業や商売は何か。そのために必要なスキルは何か。過去にそのような研修が実施されたか。その研修の成果はどうだったか。
- ➡ プロジェクトに費やすことのできる時間とリソースはどのくらいあるか（小口融資のプロジェクトは、融資に伴うリスクがあるために複雑であり、ローンの回収に数年かかることもある。持続可能で責任あるプロジェクトを実施するには、信頼の置ける融資団体と協力することが重要となる）。

地元団体が既に小口融資や金融に関する教育を提供している場合があるかもしれません。新規の協力団体を探す際には、銀行や小口融資組織、女性支援団体、政府や自治体、金融知識に関する無料研修を提供している非営利団体など、信頼の置ける団体を選びましょう。

? 小口融資のアプローチ

- ➡ グループへの融資：個々の借主がグループとなり、返済責任を共有します。仲間意識が生まれ、返済がより確実になります。
- ➡ 個人への融資：通常、融資額が比較的高く、条件を柔軟に設定できます。

+ 戦略：女性起業家に小口融資と金融研修を提供する

世界の労働の66%は女性によるもので、食糧生産の担い手の50%は女性です。しかし、女性の収入は全体の10%にすぎず、女性による財産所有は全体のわずか1~2%となっています¹⁴。世界で、女性は自らの収入の80%を家族に捧げており、これは男性所得者の2倍に相当します¹⁵。農村部での小口融資は、家畜の購入、酪農業、耕作、竹栽培、織物、自宅での小店舗開設などに活用されます。都市部では、露店や人力車での商売、仕立屋となるための立ち上げ費用などに活用されます。

小口融資を含むグローバル補助金を申請する場合には、「小口融資プロジェクトに関する補足書式」を提出する必要があります。補助金を貸付資本とする場合には、現地で半永久的に融資を継続できるマイクロファイナンス機関と契約を結ぶことが強く奨励されています。

効果的な小口融資プログラムを立ち上げるために：

- 将来有望な女性起業家を募る。募集にあたっては、地元の女性支援団体や女性グループからも協力を得る。
- 融資を受けた人には、コンサルティング、研修、金融や計算スキルに関する研修を提供し、事業プランの作成を援助する。
- メンターとなって、専門知識や経営（長期的節約、新サービスの開始など）のアドバイスをする。

- 低金利で小額の立ち上げ資金を提供し、妥当な返済プランを立てることで、起業を後押しする。
- 貯蓄と節約を奨励する。貯めた資金を相互融資するなど、事業の自助自立を促す。

持続可能性のヒント：メンタリング（個人指導）の仕組みを導入し、起業に成功した人に、ほかの人のメンターとなってもらうのも一案です。

事例研究：

グアテマラ農村部で女性のエンパワメントを図る小口融資

グアテマラ農村部に住むほとんどの女性は、金融機関から融資を受けるための担保がありません。そこで、グアテマラ・デ・ラ・エルミタ・ロータリークラブがロータリー補助金を利用してプロジェクトを開始。持続可能な開発に関する教育機関IEPADESと提携して、女性たちのエンパワメントを図るために、金融と経営に関するコースを開始しました。これまでに約400人の女性（22のグループ）が研修を受けています。各グループは、貯めたお金を共同で管理して、相互融資も行っています。クラブはさらに、オークランド・ロータリークラブ（米国カリフォルニア州）とIEPADESの協力の下で、女性を対象とした金融コースの講師養成にも力を注いでいます。

商売の立ち上げや拡大に必要な資金を手にし、基本的な数学と金融の知識を身につけた女性たちは、経済的に自立することができました。さらに、このプロジェクトでネットワークを広げた女性たちは、貧困から抜け出す方法を自分たちで考えるようになりました。



女性グループは、共同資金が増えたことにより、事業のネットワーク拡大、地元住民を対象とした数学や金融知識の研修、商売拡大のアドバイス提供など、地域の発展を促すほかの活動にも投資するようになりました。

農業・畜産業の支援

2013年、全世界で推定8億4200万人が慢性的な飢えに苦しんでおり、その98%が発展途上地域に暮らしています¹⁶。今世紀半ばまでに、世界人口の約70%が都市部に集中し（現在は49%）¹⁷、収入レベルも増加すると予想されています。都市部とその近郊に住む比較的裕福な人口が増えれば、高まる需要によって食糧生産を今よりも約70%増やす必要性が生じます¹⁸。地元の課題と資産は何かを考え、適切な介入策を立てることで、農業生産の維持と増加が促されます。

? 考えてみよう

農業収入を増やし、持続可能な変化をもたらすには、徹底した地域調査を行い、地元の人びとにプロジェクトに関与してもらうことが重要となります。農家の考え方や態度を変える必要がある場合、大勢の人の協力と努力が欠かせません。見本農場と研修者養成プログラムを取り入れたプロジェクトでは、実施とモニタリングのための明確なプランを立てておく必要があります。

持続可能な農業の生産性と収入を実現するために：

- ➡ 農業への投資の増加
- ➡ 水確保と灌漑設備の拡充
- ➡ 共同作業の実施または拡大
- ➡ より効果的な種や肥料の使用
- ➡ 新しい技術や耕作手法の採用
- ➡ より低価格な種や肥料
- ➡ より高価格な生産物
- ➡ リスクのより少ない生産システムの導入
- ➡ 農産物を保護するためにより品質のよい貯蔵容器の使用

障害	介入例
金融資本の欠如	• マイクロローン、貯蓄、地元や農家所有の銀行
非熟練労働者	• スキル研修（農具や機材、さまざまな種類の種や肥料、有機肥料を使用）
時代遅れの慣行	• 新しく、生産性の高い慣行、材料、機材、農具に関する研修 • 現代的な農作リソースを用いた見本農場の運営

障害	介入例
土地不足／土壌の劣化	• 協同組合・共同団体の設立 • 生産性の改善 • 市場価値の高い農作物の生産 • 農業慣行の改善 • 活動の多様化（例：家畜の飼育、非農業活動）
市場へのアクセス欠如	• より規模の大きい市場で大量の作物を販売するために近隣農家と連携 • 協同組合の設立 • 腐敗を防ぐために収穫作物を保存・加工 • 農作物の新しい貯蔵方法
水不足	• 効果的な水利用 • 水収集方法の改善 • 新しい貯水設備の設置 • 井戸からの灌漑
市場に関する知識不足	• 地元の予備調査、市場オプション、地元市場に関する研修の実施

どのような解決策を取る場合も、単に機材や設備の購入だけを提案したり、地元で購入や修理ができない機材を提供することは避けましょう。さらに、地元の人びとの能力向上を視野に入れ、住民参加型のプロジェクトとすることが、長期的に農業収入を増やすためのカギとなります。

事例研究：

カメルーンにおける農業の持続可能性の改善

カメルーン西部では、土壌の侵食と劣化によって農業の収穫と収入が大幅に減っています。ロータリー補助金の支援の下、バフサム・ロータリークラブと第7080地区（カナダ）は、持続可能な畜産を支援するSustainable Livestock財団と提携し、特に女性と若い世代を対象に、農家の純収入を高めるプロジェクトに取り組んでいます。特に、以下の方法で有機農業の改善を図ることに力を注いでいます：

- 鶏糞の使用による土壌の肥沃化
- 土壌侵食の抑制
- 異なる種類の種を用いた生産高の改善
- 農作物販売による収入の増加

関心のある農家が小額の参加費を払って研修を受け、農業技術者による指導の下、生産を30%高めるための方法を学びました。研修で使われた農具と機材の購入費の30%は、参加した農家自らが支払いました。

プロジェクトの第二段階では、改善種を使用した農家らが互いに学び合う予定となっています。



農業研修に参加したカメルーンの農業従事者たち。

貧困問題に取り組むためのリソース

極度の貧困者の数は、過去30年間に全世界で大きく減少しています。1981年には発展途上地域の人口の半数以上が、1日に1ドル25セント未満で暮らしていましたが、2010年にはこの数が21%にまで減少しています。しかし、現在も12億人が極度の貧困状態にあります。2030年までに極度の貧困をなくすには、貧しい人びとのエンパワメントを図ることが必要とされています¹⁹。「Adopt-a-village」（村の自立支援）と呼ばれるプロジェクトは、人間の基本的なニーズが満たされていない地域社会において、包括的な方法で極度の貧困問題に取り組むものです。地元の人びとの積極的な参加が必要とされるこれらのプロジェクトでは、ある一つの村や地域社会で、住民たちのリーダーシップとスキルを養成し、多様な戦略を用いて村全体の改善を図ります。プロジェクトの最終目標は、住民の自立を促し、住民自らの力で極度の貧困を克服し、地域の発展を図れるようにすることです。

ロータリー地域社会共同隊（RCC）は、地元ロータリークラブの支援の下に結成される住民のグループで、地域社会のために活動します。RCCは、クラブと地域社会をつなぐ架け橋となるだけでなく、地域が抱える課題やニーズなどを特定する上で重要な存在です。

? 考えてみよう

「Adopt-a-village」プロジェクトに取り組む場合、まずは、その村や地域社会において、教育と就職の機会、基本的インフラ、適切なリーダーシップが欠如していることが、地元や国のデータから明らかであることを確認しましょう。次に、ニーズをより深く探るために地域調査を行いましょう。「Adopt-a-village」プロジェクトの成功には、計画段階で地元住民に参加してもらい、一緒に最終目標を決めることが肝要です。

「Adopt-a-village」プロジェクトは、通常、極度の貧困にある僻地で実施されます。このような地域では、能力向上の機会が限られ、情報へのアクセス、基本的教育、水と衛生設備が不足しています。地域社会にはそれぞれ異なる事情があるため、ある地域での「Adopt-a-village」の内容を、そのままほかの地域で採用することはできません。最大の目的は、一定の期間内に、地域社会の自助自立能力を高めることです。

+ 戦略：「ADOPT-A-VILLAGE」プロジェクト

「Adopt-a-village」プロジェクトの内容は各地の事情によって異なります。地域調査でニーズが分かったら、地元のリソースと期待される成果について、集会を開くなどして地元の人びとと話し合いましょう。期待される成果について項目別に優先順位をつけると、プロジェクトの計画が立てやすくなります。一般に、「Adopt-a-village」プロジェクトには以下のような特徴があります。

- 極度の貧困という複雑な問題に包括的に取り組むため、多面的な活動を含む
- さまざまなプロジェクトが一つのコミュニティや村で実施される
- 立案から評価まで、プロジェクトの各段階で地域社会の人びとが主体となって進める
- 地元自治体や他の機関と協力する
- 村の人びとから選ばれたリーダーに研修を提供し、この人が地元での監督や支援にあたる
- 村の人びとが特定したニーズと優先事項に基づいて研修が立案される
- 地域社会の異なるセクターをつなげ、画期的なアイデアを生み出すチャンスとなる

「Adopt-a-village」プロジェクトでは、プロジェクトの計画、実施、モニタリング、評価の各段階で、地元の人びとが中心的な役割を担います。プロジェクトの目標、成果、今後の期待、持続可能な計画（少なくとも1年分の計画）を、地元地域の人びとにも公開するとよいでしょう。プロジェクトの終了後も成果を持続させ、人びとが自力で問題を解決していけるよう支援することが最大の目的です。

事例研究：

カンボジアでの「ADOPT-A-VILLAGE」 (村の自立支援) プロジェクト

カンボジアでは、プノンペン・ロータリークラブがロータリー第9800地区（オーストラリア）と協力し、グローバル補助金を活用して「Adopt-a-village」プロジェクトを実施しています。この村に暮らす約800人の人びとは、貧困による飢えに苦しんでいます。さらに、きれいな水、衛生設備、栄養、薬、衛生に関する知識がないために、コレラやチフスで命を落とす人が少なくありません。プロジェクトでは、教員の養成、学校用品や設備の購入、衛生教育、マッシュルーム栽培と養豚、シルク織ベンチャーなどを支援することで、持続可能な村全体の自立を促しています。



新しい養豚所の設計について話し合う地元
リーダーたち

参考資料&リソース

www.rotary.orgでさまざまな資料やリソースに関する情報をご覧ください。

ロータリー財団の専門家グループ

ロータリー補助金プロジェクトの計画と実施のために、ボランティアで専門知識やアドバイスを提供しているグループ。

奉仕プロジェクトの流れ (ライフサイクル)

プロジェクトの選び方、他団体との協力、プロジェクト実施、成果の測定に関するベストプラクティスを紹介。

ロータリアン行動グループ

(www.rotary.org/ja/actiongroups)

水と衛生など、各分野の専門知識を有するロータリー会員、家族、プログラム参加者・学友が集まるグループ。クラブや地区のプロジェクトに専門的なアドバイスを提供。

ロータリー地域社会共同隊 (RCC)

(www.rotary.org/ja/rcc)

よりよい地域社会づくりをめざしてロータリー会員以外の人が集まり、独自のプロジェクトを実施したり、ロータリークラブのプロジェクトを支援するグループ。

ロータリー補助金

(www.rotary.org/ja/grants)

人道的プロジェクト、奨学金、研修といった幅広い活動を実施するため、ロータリー財団からロータリークラブと地区に提供される資金。「地区補助金」は小規模で短期の活動に活用でき、「グローバル補助金」はロータリーの重点分野において持続可能かつ測定可能な成果をめざす大規模な国際プロジェクトに活用できる。

ロータリーのアイデア応援サイト

(ideas.rotary.org)

プロジェクトを紹介し、協力パートナーやボランティア、資金、物資を募ることのできるクラウドソーシングサイト。支援するプロジェクトを検索することも可能。

ロータリーショーケース

(www.rotary.org/ja/showcase)

完了したプロジェクトを掲載し、世界中の活動例を紹介し合うソーシャルネットワーキングサイト。

職業研修チーム (VTT)

地元や海外で、自らの専門分野について研修を行ったり、研修を受ける職業人グループ。

関連出版物

www.rotary.orgから以下の出版物をダウンロードできます。

ロータリーの重点分野ガイド

ロータリーの6つの重点分野を説明し、各分野のプロジェクト例を紹介。

地域調査の方法

ロータリークラブが地域調査を実施するための8つの方法を紹介。

持続可能なプロジェクトの立案：6つのステップ

持続可能なプロジェクトを計画するためのポイントを概説。

補助金管理の手引き

グローバル補助金プロジェクトの計画から完了まで、順を追って説明した手引き。

用語の説明

Adopt-a-village (村の自立支援)

極度の貧困にある地域社会において、貧困から抜け出すための包括的アプローチを採用し、住民参加型で実施される村全体の自立支援プロジェクト。人びとのリーダーシップスキルを育て、住民自らが自立のために協力して活動していけるようにすることを目的とする。きれいな水、衛生、保健、教育、女性のエンパワメントといった問題への取り組みも含む。

地域社会の調査 (Community assessment)

プロジェクト実施地の現状（強み、弱み、資産、格差、ニーズなど）を調べる。この調査の結果を基に、地域社会が抱える課題やリソースを特定し、ニーズに取り組むための計画を立てる。

フォーラム／住民会合 (Community meeting)

非公式なかたちで住民や関係者が集まり、地域社会の懸念、課題、優先事項について自由に意見を交わすことのできる方法。

協力団体 (Cooperating organization)

専門知識、インフラ、アドボカシー（政府や関係機関への支援の呼びかけ）、研修、教育、その他の支援を提供する組織または教育機関。

共同組合 (Cooperative)

相互利益をもつ人びとが有志で結束した自治団体。

Default (債務不履行)

融資の法的債務（または法的条件）を満たさないこと。

見本農場 (Demonstration plot)

改良作物や新種の作物の価値、土壌管理、特定作物の土壌・気候への適応性を考慮して理想的な農場を見せるために、一定の土地を利用すること。主に実験と研修を目的とする。

極度の貧困 (Extreme poverty)

食糧、安全、飲み水、衛生設備、保健、住まい、教育、情報など、人間の基本的ニーズが極度に欠如した深刻な状態。

Financial collateral (担保)

家、畜牛、設備、農作物といった財産を融資返済の保証とすること。借主の債務不履行から貸主を保護するためのもの。

フォーカスグループ (座談会)

事前に主題や質問を定めた上で、選ばれた人びとを集めて実施される座談会。特定の問題やアイデアについて情報や意見を集めることを目的とする。経済と地域社会の発展の分野では、情報収集、信頼構築、問題解決のための場として利用され、地域プランニングや開発の計画に地元住民の声を反映させることが主な目的となる。

小口融資機関 (Microfinance institution=MFI)

小規模な非営利団体から大規模な営利企業まで、形態を問わず、融資、貯蓄、保険、送金などのサービスを提供する金融機関。低所得層がクライアントであり、特に女性の自立支援を目的とする機関も多い。小口融資（マイクロクレジット）プロジェクトにおいてロータリアンが小口融資機関と協力する場合は、署名入りの覚書を交わす前に、信頼性や実績、評判などを十分に調査すべきである。

マイクロローン／小口融資 (Microloan)

商売や小事業の開業を目的として、個人やグループに貸与される小額の融資。

非政府団体

(Nongovernmental organization/NGO)

政府とは独立して地域、国、国際レベルで組織され、営利のためではなく人道的奉仕や公共のために活動するグループ。

プロジェクトの拡張 (Scaling up)

プロジェクトの範囲、影響、持続可能性を広げること。

Social safety net (社会保障)

貧困や不平等を予防するための社会的・経済的な保障制度。通常、政府や非営利団体によって、金銭、引き換え券、食糧、その他の物資などの形で提供される。

持続可能性 (Sustainability)

ロータリーからの支援が終了した後も、独自にプロジェクトやプログラムを運営する能力。プロジェクトの長期的な成果を保つために重視される。

引用元

- 1 <http://undesadspd.org/Poverty/PovertyandEmployment.aspx>
- 2 <http://www.feedthefuture.gov/ftf>
- 3 Clarke, Daniel and Stefan Dercon (2008), "Insurance, Credit, and Safety Nets for the Poor in World of Risk," Background paper prepared for WESS 2008, UN DESA/DPAD
- 4 Poverty and Unemployment Paradox in Nigeria. Egunjobi, Titilayo Adenike. Department of Economics and Business Studies, College of Management Sciences Redeemer's University, Redemption City, Mowe, Ogun State, Nigeria
- 5 World Bank (2007a), "Ghana Meeting the Challenge of Accelerated and Shared Growth," Country Economic Memorandum — Vol. III: Background Papers, PREM 4, Africa Region, World Bank, Washington, D.C.
- 6 Global Employment Trends 2014 (ILO)
- 7 <http://povertydata.worldbank.org/poverty/home>
- 8 <http://data.worldbank.org/topic/agriculture-and-rural-development>
- 9 <http://www.un.org/millenniumgoals/poverty.shtml>
- 10 <http://povertydata.worldbank.org/poverty/home>
- 11 Kenneth King and Robert Palmer, Skills development and poverty reduction: a state of the art review (2007)
- 12 http://circle.winrock.org/circle_English/Chapter%204.pdf
- 13 <http://www.imf.org/external/pubs/ft/fandd/2007/06/basics.htm>
- 14 <http://www.globalpovertyproject.com>
- 15 http://www.ssireview.org/blog/entry/mainstreaming_gender_lens_investing
- 16 The Millennium Development Goals Report 2014
- 17 Feeding the World, Eradicating Hunger (World summit on food security n. 2, 2009)
- 18 Ibid.
- 19 <http://siteresources.worldbank.org/EXTPREMNET/Resources/EP125.pdf>



One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA
www.rotary.org